

ティーチング・ステートメント

所属 人間社会学科

名前 佐々木智之

作成日 2023年4月7日

【責任】

人間社会学科に所属し、複数の分野（学科共通科目・心理学専攻・基本教育科目の英語）の科目を担当している。1年生前期の科目を担当することが多いため、毎年初年次教育に携わっている。多くの科目に共通するのがコミュニケーション能力の育成である。

【理念】

「人間性豊かな人材の育成」：人間社会学科の新入生は、大学に来た目的や目標が多様で、個々の学生の価値観や人生観がユニークである。大学は社会人になる前の最後の学校であるが、単なる「就職予備校」ではなく、自己を見つめ、他者とかかわりあい、深く考える時間をもてる場とする。

「人を大切にする社会の実現」：人を大切にするとは、人間そのものへの興味関心を抱くことから始まる。「なぜ人は～なのか」を追究し続けること。そして、実際に人とかかわり合う経験を積み、他者に目を向け受容すること、社会を構成する個人として自分はどうあるべきかを自問する姿勢を培う場として、本学科の様々な教育活動を展開する。

【方針・方法】

上記の理念を掲げた上で、あらためて人間社会学科創設時に掲げられた「人間力」を用いて方針を具体化する。人間力は複数の要素によって成り立つ総合的な力である。その要素は、コミュニケーション能力、知的好奇心、自己評価力であるが、最も重視しているのがコミュニケーション能力である。

方針1 「コミュニケーション能力」～人間力の育成として

方法1 ディベート

人間社会学科では1年生の必修科目（人間社会学概論）に、ディベートを取り入れている。それにより膨大な量の資料を読む、集めた情報でよりわかりやすく伝わるスピーチ原稿を書く、制限時間内に第三者を説得する話し方を工夫する、終始一貫して他者の発言を聞く、といった言語運用能力を統合的に学ぶことができる。この活動を通して社会問題をテーマにした対話や議論の場を経験する。

方法2 ロールプレイング

コミュニケーション能力育成の手法として、ロールプレイングを取り入れている。場面と登場人物をおおまかに設定して学習者に提示する。学習者は与えられた状況設定を自分なりに

解釈し、その人物の心情を慮り、言葉を発する。活動の中心は他者との実演であるが、必ず事前と事後に思考する時間をとり、ワークシートへの記述を行う。

方針2 自己評価力の重視

方法1 自己と向き合う場と時間

オンライン講義によって学生はひとり自宅で講義を受けることを余儀なくされた。それによって得られたのはじっくりと考える時間である。心理学専攻の講義で、知識理解の時間の後に「あなたの考え」をワークシート上で記述する時間を設けた。そこには学生が自身の経験を振り返り、それについて内省していることが感じられる記述が多かった。自己評価には時間と場が必要であることを再確認した。

方法2 個の学びの共有化

学生がひとりで思考を巡らせて書いた文を、翌週に名前を公開せず音読することで共有化を図った。他者の記述に触れることでさらに思考が深まり、あらためて感想を書いて提出する学生が現れた。このような展開を可能にするため、対面広義になってからは、回収したワークシートに必ず朱を入れて翌週返却するサイクルを定着させた。

【評価・成果】

・ディベート コミュニケーション能力育成の手立てとして

方針1の方法1ディベート授業の実践では、事後レポートに多くの学生が「自分のコミュニケーション能力」に言及していた。向上や発展を実感出来た学生は限られるが、少なくともコミュニケーション能力を意識する場となったことは確かである

・ロールプレイング

この手法はあくまで、与えられた状況のなかで架空の人物を演じている。しかし、活動終了後の学習者が書いたコメントからは、個としての自分と向き合ったことが読み取れる。自己表現をすることによって、他者とかかわり合うだけではなく、自分のあり方を考える機会にもなった。今後も実践を蓄積し、この活動の価値、意義を追究していく。

【目標】

長期目標：実践的コミュニケーション能力を培うコミュニケーション活動の開発

学習者自らが、コミュニケーションへの関心意欲を高め、成果を実感できる学習システムを構築する。

短期目標：初年次教育としてのコミュニケーション活動の構築

新入生が1年次を終えるまでに、自分自身のコミュニケーション能力の変化を評価できるようになる。